

仙台大専後援会

大専祭活動報告書

(令和5年度版)

仙台大専後援会会長 日野 忠行
(名取キャンパス後援会会長)

仙台大専後援会副会長 萩原 弘之
(広瀬キャンパス後援会会長)

目 次

1. 名取キャンパス後援会事業
 - (1) 保護者限定100円食堂カレー体験会
 - (2) 後援会 Café よろず相談会
2. 広瀬キャンパス後援会事業
 - (1) 後援会バザー
 - (2) 放置竹林からの贈り物「竹プロジェクト」
 - (3) 後援会リサイクル募金
3. 両キャンパス後援会合同事業
 - (1) キャンパス間無料シャトルバス
4. 次年度の活動に向けて

1. 名取キャンパス後援会事業

(1) 保護者限定100円食堂カレー体験会

① 概要

普段学生が利用している学食を保護者の皆様にも体験いただき、施設を実際にご利用いただくことにより、学校運営に関する理解を深めていただくことを目的とする。学生の保護者とその同伴者（1グループ人数制限なし）を対象に、学食にて100円でカレーを提供した。なお、差額は後援会が負担する。

② 活動実績

引換券購入希望者が殺到し、販売時間の11時には購入希望者の長蛇の列ができた。また、1日150食限定で提供予定だったが、購入希望者が多かったため20食を追加し、1日170食提供した。

日時	客数（人）	メニュー	提供数（食）
10/28（土）	170	カレー	170
10/29（日）	170	カレー	170

③ 利用者の感想

- ・息子が普段食堂でどんなご飯を食べていたのか気になっていたので体験できて嬉しかった。
- ・学校での様子を知るきっかけになりありがたかった。カレー美味しかったです。
- ・メディアでも取り上げてもらったのを見ましたが、学生が何杯も食べていたのが良くわかります。素敵な企画ありがとうございました。
- ・弁当を作るが休めるので、学生向け100円ランチをまたお願いします。
- ・先日行った100円ランチを息子がいただきお世話になっております。
またそのような行事をやっていただけると親としても嬉しく思います。



食堂は保護者の皆様で超満員！



カレー引換券購入希望者の長蛇の列

(2) 後援会 Café「よろず相談会」

①概要

在校生の保護者や高専への入学を希望する中学生やその保護者を対象としたカフェ形式の相談所を設け、在校生保護者の立場から相談に応じた。

主な目的は後援会役員と会員である保護者との親睦であるが、本校への入学を希望する現役中学生の保護者も対象とすることにより、現役中学生の保護者との親睦を深め、進学前の疑問や不安を取り除き、入学希望者の増募対策として学校に寄与することを目的とする。

なお、利用者には無料で飲み物（ペットボトル）とお菓子を提供した。

②活動実績

10/28 相談者 6組+α

10/29 相談者 4組+α

相談日時	相談者	相談内容
10/28	5年マテ環保護者	就職決定→大阪引越し→電動自転車の輸送について
	受験予定保護者	・コース別の説明・推薦入試の作文、面接について ・寮について
	中3保護者	合否判定と役員の仕事について
	増中3年男子保護者	・今時期の成績について、合否判定どうだった？ ・役員になりたい
	1年男子保護者	スーツ（就職時）準備の時期
	中3保護者	受験について（推薦、一般）偏差値など
10/29	中2保護者	コース選択について・ロボティクス進級は難しいか
	中3保護者	プログラミング希望、女子でもOKか？
	中3本人、保護者2名	・赤点について、勉強は厳しいか・推薦入試について
	中3本人、姉妹、保護者	・ロボティクスに興味がある・古川に住んでいる ・行きたい割に本人が勉強せず、母が心配している。

③利用者の感想

- ・よろず相談会では大変助かりました。お話も楽しくはずんでとても参考になりました。
- ・卒業式のスーツの相談も出来て良かったです。実際に写真を見せてもらいとても参考になりました。



当日のよろず相談会の様子



チラシを配布してイベントのPR

2. 広瀬キャンパス後援会事業

(1) 後援会バザー

①概要

後援会会員である保護者、広瀬キャンパス教職員、地域の方々からご支援いただいた提供品を販売し、売り上げを次年度高専祭の運営費として例年寄付している。

②活動実績

例年提供品不足で売上が少ない傾向があったが、本年度は初の取り組みとして教職員へも提供品のご支援をお願いした。支援のお願いは郵送物への同封、メールマガジンの配信（10/3 メールマガジン Vol4、10/20 メールマガジン高専祭特集号）で行った。

これまでにない程の提供品をご支援いただき、バザー会場は大いに賑わった。保護者同士や地域の方々と親睦を深めている様子が見受けられた。当日、後援会役員・実行委員が全員（29名）参加した。

バザー開催についてのアナウンスは、郵送物の同封、メールマガジン配信（10/20 メールマガジン高専祭特集号）、ホームページ（以下 HP と表記）への掲載で行った。HP やメールマガジンを見て来校された方が多かった。

バザーの収益（1日目 76,240 円、2日目 54,145 円）については、学生の活動資金として活用していただくため、全額を「仙台高専基金」へ寄付する。なお、11月17日（金）に行われる後援会懇親会において、後援会会長より校長へ売り上げをお渡しする「後援会バザー収益金贈呈式」を実施する。

後援会バザー収益金：130,385 円



(2) 放置竹林からの贈り物「竹プロジェクト」

①概要

仙台高専管理課と広瀬キャンパス後援会の連携事業として、広瀬キャンパス内の放置竹林から伐採した竹の有効活用を促進するため、間引いた竹を加工した物を来場者に無料で配布した。

②活動実績

管理課の皆様にご協力をいただき、広瀬キャンパス内の放置竹林の竹を間引いたものを「青竹踏み」や「靴べら」等に加工していただき、後援会バザー会場の一角で来場者に配布するとともに、広瀬キャンパスの環境整備活動の促進のための募金箱を設置した。

竹プロジェクトについてのアナウンスは、メールマガジン（10/20 メールマガジン高専祭特集号）、HP、ポスター掲示等にて行った。

実際に青竹踏み体験できるブースを設置し、「青竹踏み」60個、「靴べら」40本を配布用に準備したが瞬間に品切れとなった。また、設置した募金箱には、多くの方に募金をいただき、キャンパス環境改善のための関心を高めることができた。

募金額については1日目8,110円、2日目4,185円であった。集まった募金については、広瀬キャンパスの環境整備の活動資金として活用していただくため、全額を「仙台高専基金」へ寄付する。なお、11月17日（金）に行われる後援会懇親会において、後援会会長より校長へ集めた募金をお渡しする「贈呈式」を実施する。

広瀬キャンパス環境整備に対する募金額 12,295 円



竹プロジェクト 靴べらが人気No1



青竹踏み 痛気持ち良くて人気

(3) 後援会リサイクル募金

①概要

学生、教職員、保護者等に対して、学校への支援を目的として、不要になった本、DVD、CD、ゲームソフト等を高専祭にて提供していただき、集まった提供品を「リサイクル募金きしゃぽん」に送付し、仙台高専基金へ寄付金として寄付する。

②活動実績

後援会バザー会場の一角にリサイクル募金用の回収ボックスを設置した。リサイクル募金のアナウンスについては、メールマガジン（10/20 メールマガジン高専祭特集号）、HPにて行った。

提供していただいた品は、書籍 23 冊、DVD 8 本となっている。今後「リサイクル募金きしゃぽん」に送付し、手続きを行った上で仙台高専基金へ寄付金として寄付を行う。なお当該活動は、今後継続的に後援会事業として実施する。

3. 両キャンパス後援会合同事業

(1) キャンパス間無料シャトルバス

① 概要

名取キャンパスおよび広瀬キャンパスの交流の象徴として学生から要請があった「急行しらはぎ号」（両キャンパスを往復するシャトルバス）の運行について、後援会としてもその趣旨に賛同し積極的にサポートを行った。

具体的には、費用を支援するだけではなく、乗降時のサポート（見送り、出迎え）や、乗客への記念品の配布を行った。

② 活動実績【両キャンパス】

乗車人数 2 日間累計乗車数 124 名（1 日目 61 名 2 日目 63 名）

広瀬キャンパスでは、乗客に対し後援会からの記念品として駄菓子セット（140 円×250 個）を配布した。また、名取キャンパスでは乗客に対しペットボトルのお茶を配布した。バスの離発着時間には後援会実行委員が記念品の配布と、お見送り・お迎えをした。「広瀬キャンパスに初めて来ました」とおっしゃっていた方が、広瀬キャンパスを見て感動されていたのが印象的だった。

また、運行中の車内では、学生より後援会からのメッセージを発信してもらった。



③ 利用者の感想

- ・両キャンパスに行けるのは魅力的でいい企画です。ぜひ継続してください。
- ・指定席方式、チケット、乗務員さん同乗でのアナウンスまで遊び心満載で至れり尽くせりでした。バス乗車中も快適で楽しい時間を過ごせました。
- ・お茶ありがとうございました。
- ・本数をもう少し増やしてほしい。名取キャンパス滞在が1時間ほどしかなく、ステージは昼休みだった。

4. 次年度の活動に向けて

(1) 名取キャンパス後援会

100円食堂保護者体験会は、好評で提供をお断りする事にもなった。高専の保護者では無い方の利用もあったので、その確認をどのように行うか、また、メニューについても生協と連携し保護者の要望などを取り入れていきたい。

後援会カフェよろず相談会では、高専入学を希望する保護者の利用が多かった。当日に配布したチラシの効果だと思われる。高専保護者の利用は少なく、保護者間の親睦を深める、と言う目的は達成されなかったので、次年度はどのようにすれば保護者の利用が増えるのか、告知、内容とも検討したい。

両キャンパスを往復するシャトルバス「急行しらはぎ号」は乗客からは大変好評だったが、乗車率が30%に届かないという結果になった。周知不足が原因と思われるので、次年度学生から要請があり運行する場合には、周知の徹底、またバスの規模の検討など、運営について学生会に確認する必要がある。

来年度の高専祭では、図書館と連携したイベントを考えたいと思っている。

(2) 広瀬キャンパス後援会

今年度は、久々の高専祭フル開催ということもあり、かなり来校者が多かった。後援会バザー会場にもたくさんの来客があった。HPやメールマガジンを見て来たという保護者が多く、HPやメールマガジンの効果を実感した。

バザーは幸い教職員からの提供品のご協力を得ることで、たくさんの商品に恵まれたため集客効果があり、同会場で行われた「竹プロジェクト」「後援会リサイクル募金」にも興味を持ってもらうことができた。

今年は来客が多くて良かったものの、今後バザーのやり方や高専祭に対する後援会の支援の方法を変えていかなければマンネリ化し、集客が見込めない。次年度からの高専祭では後援会がどのような役割を果たせるのか再考する必要がある。

「急行しらはぎ号」については、アナウンス不足、学生会・高専祭実行委員会自体の周知不足があったので、今後は学生と後援会の連携を密にしていけることが必要だと感じた。引き続き、学校や学生と連携し、高専祭を盛り上げていきたいと思う。